



Cisco Smart Software Manager サテライト ユーザ ガイド

初版: 02/16/2015

最終更新日: 01/28/2016

Copyright © 2015 Cisco Systems, Inc.

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると想定していますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザー側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記供給者は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、あるいは、取り扱い、使用、または取引慣行によって発生するあらゆる保証に関して、明示的、黙示的を問わず責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

シスコ、およびシスコ ロゴは、シスコまたはその関連会社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。シスコの商標の一覧は http://www.cisco.com/web/JP/trademark_statement.html でご確認ください。掲載されている第三者の商標はそれぞれの権利者の財産です。「パートナー」または「partner」という用語の使用は、シスコと他社との間のパートナーシップ関係を意味するものではありません。(1110R)



The Java logo is a trademark or registered trademark of Sun Microsystems, Inc. in the U.S. or other countries.

目次

はじめに	5
対象読者	5
表記法	5
マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート.....	6
Cisco Smart Software サテライトの概要	7
Cisco Smart Software Manager サテライトについて.....	7
システムのセットアップの概要.....	8
システム要件.....	8
対応する Web ブラウザ.....	8
Cisco Smart Software Manager サテライトのセットアップ	9
Cisco Smart Software Manager サテライトの設定.....	9
GUI を使用したサテライトの登録.....	9
ネットワーク経由での登録.....	9
手動での登録.....	10
CLI を使用したサテライトの登録.....	11
時刻の設定.....	12
Cisco Smart Software Manager サテライトの使用	13
ライセンス、製品インスタンス、および登録トークン.....	13
バーチャル アカウント.....	14
[バーチャル アカウント(Virtual Account)] ペイン.....	14
バーチャル アカウント情報の表示.....	16
製品インスタンスの登録トークンの作成.....	16
製品インスタンスの登録トークンの表示.....	16
製品インスタンスの登録トークンの管理.....	17
バーチャル アカウントのライセンスの表示.....	17
バーチャル アカウントの製品インスタンスの表示.....	17
製品インスタンスの転送.....	18
製品インスタンスの削除.....	18
イベント ログの表示.....	19
CSV ファイルへのエクスポート.....	19
同期のアラートとアクション.....	19
[同期(Synchronization)] ペイン.....	20
サテライトの同期スケジュールの設定.....	21

[レポート(Reports)] ペイン	23
レポートの実行	23
[管理(Administration)] ペイン	24
新しい管理者の作成	24
診断ログ ファイルの生成	25
[システム設定(System Settings)]	25
自動ソフトウェア配布による Cisco Smart Software Manager サテライト のアップグレード	25
ネットワーク アップグレードの使用	26
ネットワーク アップグレードのスケジューリング	26
手動アップグレードの使用	27
バージョン 2.0 から 2.1.2 へのアップグレード	27
後方互換性	28
トラブルシューティング	30
クライアント登録に関する問題	30
手動同期に関する問題	30
ネットワーク同期に関する問題	30

はじめに

[対象読者](#)、5 ページ

[表記法](#)、5 ページ

[マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート](#)、6 ページ

対象読者

このガイドは、シスコのスマート対応ソフトウェアのインストールおよびライセンスを管理するサイト管理者を対象としています。

表記法

コマンドの説明には、次のような表記法が使用されます。

表記法	説明
太字	太字の文字は、表示どおりにユーザが入力するコマンドおよびキーワードです。
<i>イタリック</i>	イタリック体の文字は、ユーザが値を入力する引数です。
[x]	省略可能な要素 (キーワードまたは引数) は、角カッコで囲んで示しています。
[x y]	いずれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードや引数は、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
{x y}	必ずいずれか 1 つを選択しなければならない必須キーワードや引数は、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x {y z}]	角カッコまたは波カッコが入れ子になっている箇所は、任意または必須の要素内の任意または必須の選択肢であることを表します。角カッコ内の波カッコと縦棒は、省略可能な要素内で選択すべき必須の要素を示しています。
variable	ユーザが値を入力する変数であることを表します。イタリック体を使用できない場合に使用されます。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてstring と見なされます。

例では、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
screen フォント	スイッチが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
<>	パスワードのように出力されない文字は、かぎカッコ(<>)で囲んで示しています。
[]	システム プロンプトに対するデフォルトの応答は、角カッコで囲んで示しています。
!, #	コードの先頭に感嘆符(!)またはポンド記号(#)がある場合には、コメント行であることを示します。

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

メモ: 読者に留意していただきたいことを示します。役立つ情報やこのマニュアルに記載されていない参照資料を紹介しています。

注意: 注意が必要なことを示します。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

資料の入手方法、Cisco Bug Search Tool (BST) の使用法、サービス要求の送信方法、および追加情報の収集方法については、「*What's New in Cisco Product Documentation (Cisco 製品資料の更新情報)*」(<http://www.cisco.com/c/en/us/td/docs/general/whatsnew/whatsnew.html> [英語])を参照してください。

「*What's New in Cisco Product Documentation (Cisco 製品資料の更新情報)*」に配信登録すると、新しい(または改訂された)シスコ技術情報のリストが RSS フィードとして提供され、リーダー アプリケーションを使ってコンテンツがデスクトップに直接配信されるようにすることができます。RSS フィードは無料のサービスです。

Cisco Smart Software サテライトの概要

[Cisco Smart Software Manager サテライトについて](#)、7 ページ

[システムのセットアップの概要](#)、8ページ

[対応する Web ブラウザ](#)、8ページ

Cisco Smart Software Manager サテライトについて

Cisco Smart Software Manager サテライトを使用すると、サテライトに関連付けられたシスコのスマート ソフトウェア ライセンスと製品インスタンスを管理できます。Cisco Smart Software Manager サテライトでは、バーチャル アカウントと呼ばれるグループでライセンスを整理および表示します。このアプリケーションを使用して、サテライトに関連付けられたバーチャル アカウントのすべてのライセンスを管理できます。詳細については、「[バーチャル アカウント](#)」を参照してください。(14 ページ)

Cisco Smart Software Manager サテライトは、シスコ ネットワークに接続できない、あるいはネットワーク アクセスが制限されている製品をサポートし、スマート ソフトウェア ライセンスのローカル データベースとして切斷モードで機能します。

ネットワーク アクセスが制限された製品については、Cisco Smart Software Manager サテライトのローカル データベースにデータが格納され、Cisco.com を介して Cisco Smart Software Manager クラウド ポータルと同期されます。データは、オンデマンドで転送できるほか、転送間隔を設定してスケジュールに従って転送することもできます。

Cisco.com に接続できない製品については、ファイル ベースの同期オプションを使用して Cisco Smart Software Manager のデータを転送および更新できます。サテライトとポータルの間の同期プロセスにより、ライセンスの使用権と使用状況が最新に保たれます。

インストールとセットアップが完了した後、ブラウザでサテライトにアクセスできます。HTTP を使用してサテライトにアクセスしようとすると、デフォルトで HTTPS が使用されます。

たとえば、<http://172.125.15.17:8080> と入力した場合、デフォルトで <https://172.125.15.17:8443> になります。また、最初から <https://172.125.14.17:8443> を使用することもできます。

「ネットワーク」機能を使用する場合は、Cisco Smart Software Manager サテライトへのログイン時にシングルサインオン (SSO) 画面が表示されます。これは、スマート アカウントおよびバーチャル アカウントにアクセスしてネットワーク登録を行うときに、有効な CCO ID が必要になるためです。

Cisco Smart Software Manager サテライトでは、製品インスタンスとの通信にも自動的に HTTPS が使用されます。以前のバージョンのサテライトとは異なり、Transport Gateway から自己署名証明書をダウンロードして個別に設定する必要はありません。マルチレベルの証明書階層機能により、Transport Gateway、サテライト、および更新された Smart Agent から自動的に認証証明書が提供されます。また、Cisco Smart Software Manager ポータルへのサテライトの登録もすぐに完了します。そのため、製品に古い Smart Agent が組み込まれているような稀なケースを除き、インストールとセットアップの完了後すぐに Cisco Smart Software Manager サテライトを使い始めることができます。

Cisco Smart Software Manager サテライト ソフトウェアは、システムの実行中に自動でロールバックしながらアップグレードを簡単に実行できます。完了すると、アップグレード後のバージョンでシステムが再起動されます。ユーザ インターフェイスまたは仮想マシンの管理シェルから、Cisco Smart Software Manager サテライト アプリケーションを新しいバージョンにアップグレードできます。アップグレードの完了後に以前のリリースにダウングレードすることはできません。そのため、アップグレードの完了後にダウングレードが必要になる場合に備え、復元用のバックアップを作成しておくことを強くお勧めします。

システムのセットアップの概要

Cisco Smart Software Manager サテライト ポータルは、左側のナビゲーション ペインとメインの作業ペインの 2 つの主要なセクションに分かれています。

注: このセクションで説明されている作業を開始する前に、スマート アカウントに割り当てられていることを確認してください。

ナビゲーション ペインを使用して、次の作業を実行できます。

- バーチャル アカウントのリストを表示する。
- 同期スケジュールを設定する。
- バーチャル アカウントに関するレポートを実行する。
- アップグレードの管理とユーザの管理を行う。

システム要件

注: このセクションで説明されている作業を開始する前に、スマート アカウントに割り当てられていることを確認してください。

Cisco Smart Software Manager サテライトのインストール用に提供されたソフトウェア イメージが次の構成になっていることを確認します。

- 50 ~ 200 GB のハード ディスク (OVA の場合は 200 GB 必要)
- 8 GB のメモリ
- 4 基の CPU

Cisco Smart Software Manager サテライトの OVA、KVM、Hyper-V、ISO のベア メタル ビルドのインストール パッケージには、以下が含まれています。

- **JEOS**
- **Smart Call Home Transport Gateway**
- **Smart Software Manager サテライト**

サテライトのインストールとセットアップの詳細については、『*Cisco Smart Software Manager satellite Installation Guide (Cisco Smart Software Manager サテライト インストール ガイド)*』を参照してください。

対応する Web ブラウザ

Cisco Smart Software Manager サテライトでは、次の Web ブラウザがサポートされています。

- Chrome 32.0 以降のバージョン
- Firefox 25.0 以降のバージョン
- Safari 6.0.5

注: ブラウザで Javascript 1.5 以降を有効にする必要があります。

Cisco Smart Software Manager サテライトのセットアップ

[Cisco Smart Software Manager サテライトの設定](#)、9 ページ

[GUI を使用したサテライトの登録](#)、9 ページ

[CLI を使用したサテライトの登録](#)、11 ページ

[時刻の設定](#)、12 ページ

Cisco Smart Software Manager サテライトの設定

サテライトを設定するには、以下を実行する必要があります。

- ネットワーク経由または手動でサテライトを登録します。
- NTP サーバと時刻を同期します。

注: インストール プロセスの詳細については、『*Cisco Smart Software Manager satellite Installation Guide (Cisco Smart Software Manager サテライト インストール ガイド)*』を参照してください。

GUI を使用したサテライトの登録

Cisco Smart Software Manager サテライトをインストールしたら、サテライトを Cisco Smart Software Manager (CSSM) に登録して、セキュアな通信を維持するために必要なアイデンティティを確立する必要があります。GUI では、オンラインとオフラインの 2 種類の方法でサテライトを登録できます。オンライン(ネットワーク)にはネットワーク接続が必要であり、Cisco Smart Software Manager ポータルから切断された環境ではオフライン(手動)を使用します。サテライトの登録プロセスが完了すると、すぐに Cisco Smart Software Manager から登録を確認する応答が返されます。

ネットワーク経由での登録

手順

1. `http://<ipaddress>:8080` または `http://<ipaddress>:8443` を使用して、Cisco Smart Software Manager サテライト アプリケーションを起動します。
2. サテライトのユーザ ID とパスワードを使用してサテライトにログインします。
3. [時刻の設定 (Time Settings)] タブで、サテライトの時刻がシスコのライセンスング クラウドと正確に同期されていることを確認します。時刻が異なる場合は、サテライトが実行されている JEOS プラットフォームが NTP サーバと同期されていることを確認します。
4. [次へ (Next)] をクリックします。
5. [セットアップ方法 (Setup Method)] 画面で、オンライン登録用の [ネットワーク セットアップ (Network Setup)] オプション ボタンをクリックし、[次へ (Next)] をクリックします。
6. CCO のシングルサインオン画面が表示された場合は、CCO のクレデンシヤルを使用し、[ログイン (Log In)] をクリックしてログインします。
7. [承認要求 (Request for Approval)] ダイアログボックスで、[許可 (Allow)] をクリックし、次の内容を指定します。
 - a) サテライト名を入力します。

- b) [スマート アカウント(Smart Account)] を選択します。
 - c) 新しいバーチャル アカウントを追加するか、既存のアカウントを使用します。
バーチャル アカウントは複数設定できます。
8. [サテライトの登録(Register Satellite)] をクリックします。
 9. プロンプトが表示されたら、サテライトの登録を確認し、ステータス表示で登録が正常に完了するかを確かめます。
このプロセスの間にシステムが自動的に再起動されます。再起動後は、再起動前に実行していた手順から処理が再開されます。
 10. [次へ(Next)] をクリックします。
[同期の設定(Synchronization Settings)] ページが [ネットワーク セットアップ(Network Setup)] が選択された状態で表示されます。ライセンスの使用権と使用状況を最新に保つために、サテライトと Cisco Smart Software Manager のデータは定期的に同期する必要があります(推奨される間隔は 30 日で、少なくとも 90 日ごとに同期する必要があります)。このセクションで、Cisco Smart Software Manager サテライトと Cisco.com クラウド ポータル間の接続を設定し、オンデマンドで同期したり、ネットワーク同期を使用してさまざまな間隔で同期したりできます。
 11. [サテライトのセットアップの概要(Satellite Setup Summary)] ダイアログボックスで、[サテライトの設定(Configure Satellite)] をクリックします。
登録プロセスが完了し、メイン画面の [全般(General)] タブに戻ります。

注:この設定は後で変更が可能です。Cisco Smart Software Manager サテライト ポータルの [同期(Synchronization)] ページで同期スケジュールを設定し直すことができます。詳細については、「[サテライトの同期スケジュールの設定](#)」を参照してください。(21 ページ)

次の実施手順

これでサテライトの設定プロセスは完了です。Cisco Smart Software Manager に移動し、更新された [サテライト(Satellites)] ペインで、新しく登録したサテライトの詳細を確認できます。

このユーザ ガイドの他のセクションを参照して、スマート ライセンスの各種作業に進んでください。

手動での登録

Cisco Smart Software Manager サテライトが完全に切断された環境では、次の手順に従って手動でサテライトを登録します。

手順

1. `http://<ipaddress>:8080` または `http://<ipaddress>:8443` を使用して、Cisco Smart Software Manager サテライト アプリケーションを起動します。
2. サテライトのユーザ ID とパスワードを使用してサテライトにログインします。
3. [時刻の設定(Time Settings)] タブで、サテライトの時刻がシスコのライセンシング クラウドと正確に同期されていることを確認します。時刻が異なる場合は、サテライトが実行されている JEOS プラットフォームが NTP サーバと同期されていることを確認します。
4. [次へ(Next)] をクリックします。
5. [セットアップ方法(Setup Method)] 画面で、オフライン登録用の [手動セットアップ(Manual Setup)] オプション ボタンをクリックし、[次へ(Next)] をクリックします。
6. [登録ファイルの生成(Generate Registration File)] をクリックし、ファイルをコンピュータに保存します。
登録要求ファイルが生成されます。
7. Cisco Smart Software Manager に移動し、[サテライト(Satellites)] をクリックします。
8. [サテライト(Satellites)] タブで、[新規サテライト(New Satellite)] をクリックします。
9. [新規サテライト(New Satellite)] ダイアログボックスで、登録が必要なサテライトの名前を入力します。
10. [登録ファイル(Registration File)] フィールドの横にある [参照(Browse)] ボタンをクリックし、前の手順で生成されたサテライトにある登録ファイルを選択します。

11. [バーチャル アカウント(Virtual Accounts)] フィールドに、新しいサテライトで管理する既存のバーチャル アカウントを選択します。
適切なアクセス権(スマート アカウント管理者の権限)があれば、新しい仮想アカウントを作成することもできます。バーチャルアカウントは複数設定できます。
12. [認証ファイルの作成(Create Authorization File)] をクリックします。
13. プロンプトが表示されたら、[認証ファイルのダウンロード(Download Authorization File)] をクリックし、ファイルをコンピュータに保存します。
以前は登録応答ファイルをダウンロードするまで 48 時間待つ必要がありましたが、現在はすぐにダウンロードできるようになりました。
また、新しく作成したサテライトの情報が [サテライト(Satellite)] タブにすぐに反映されます。
14. Cisco Smart Software Manager サテライトの [サテライトの登録(Register Satellite)] ステップで、[参照(Browse)] をクリックし、認証ファイルをダウンロードした場所に移動します。
15. [アップロード(Upload)] をクリックして、認証ファイルをアップロードします。
16. [サテライトの登録(Register Satellite)] をクリックします。
このプロセスの間にシステムが自動的に再起動されます。再起動後は、再起動前に実行していた手順から処理が再開されます。
17. [同期の設定(Synchronization Settings)] ページで、[次へ(Next)] をクリックします。
ライセンスの使用権と使用状況を最新に保つために、サテライトと Cisco Smart Software Manager のデータは定期的に同期する必要があります(推奨される間隔は 30 日で、少なくとも 90 日ごとに同期する必要があります)。
18. [サテライトのセットアップの概要(Satellite Setup Summary)] ダイアログボックスで、概要情報を確認し、設定に問題がなければ [サテライトの設定(Configure Satellite)] をクリックします。

次の実施手順

これでサテライトの設定プロセスは完了です。Cisco Smart Software Manager に移動し、更新された [サテライト(Satellites)] ペインで、サテライトの詳細を確認できます。

このユーザ ガイドの他のセクションを参照して、スマート ライセンスの各種作業に進んでください。

CLI を使用したサテライトの登録

CSSM へのサテライトの登録は、JeOS 管理シェルで対話型の CLI スクリプトを使用して実行することもできます。これは、サテライトの GUI を使用したオンライン登録機能に相当します(CSSM へのインターネット接続が必要です)。

注: CLI のスクリプトは、入力を求めるプロンプトで Ctrl+X、Enter キーを押すことでいつでも終了できます(ただし CCO のパスワードを求めるプロンプトでは終了できません)。

手順

1. コマンド プロンプトで、`conf satellite-registration` と入力します。
サテライトがすでに登録されている場合は、すぐに通知が表示されるため、以降の手順を実行する必要はありません。
2. プロンプトで、サテライトの名前を入力します。
3. スマート アカウントにアクセスするための Cisco.com のユーザ名とパスワードを入力します。
Cisco.com でアクセスできるスマート アカウントのリストが表示されます。
4. 目的のスマート アカウントに関連付けられている番号を入力します。
誤った番号を入力すると、もう一度入力するように求められます。
そのスマート アカウントのバーチャル アカウントのうち、対象となるバーチャル アカウントのリストが表示されます。デフォルトのバーチャル アカウントは対象には含まれず、いずれの製品インスタンス(すでに CSSM に登録されている製品インスタンス)も含んでいないバーチャル アカウントが対象になります。
5. リストから 1 つ以上のバーチャル アカウントを選択し、そのバーチャル アカウントの番号を入力して Enter キーを押します。
6. (オプション)バーチャル アカウントを追加する場合は、カーソルを空白行に移動して Enter キーを押します。

7. 確認プロンプトで、y と入力します。

メッセージが表示され、CSSM への登録プロセスが開始されます。これには数分かかることがあり、登録が完了するまでの進捗状況がメッセージで示されます。

プロセスが完了すると、登録ステータスを通知するメッセージが表示されます。登録が正常に完了した場合は、CSSM を開くと、登録したサテライトが [サテライト(Satellites)] タブに表示されます。登録に失敗した場合は、失敗した理由を示すメッセージが表示され、それによって問題を解決できます。

8. (オプション)最後の手順(CSSM へのサテライト登録の送信)を実行する前に JeOS シェルを終了した場合は、管理シェルのプロンプトでコマンド `conf satellite-registration` を入力するとプロセスをもう一度開始できます。

最後の手順で登録要求を CSSM に送信した後に管理シェルを終了した場合は、登録プロセスが続行され、ほかにエラーがなければサテライトが正常に登録されます(完了したことを示すメッセージは表示されないこともあります)。

ネットワーク接続に問題が発生した場合、サーバからの応答を待機している間にタイムアウトし、管理シェルのプロンプトに戻ることがあります。

- 最後の登録に進む前のいずれかの手順でタイムアウトが発生した場合は、このツールをもう一度やり直すことができます。
- 最後の登録手順でタイムアウトが発生した場合は、このサテライトの処理が不確定な状態で終了してしまう可能性があります。登録プロセスが完了したかどうかわからないときは、まず CSSM の [サテライト(Satellites)] タブをチェックし、サテライトが表示されるかどうかを確認します。それ以外の問題については、シスコのサポートにお問い合わせください。

時刻の設定

手順

NTP サーバと時刻を同期するには、次の手順を実行します。

- [時刻の設定(Time Settings)] タブで、[次へ(Next)] をクリックします。
- [時刻を同期(Sync Time Now)] をクリックします。

Cisco Smart Software Manager サテライトの使用

[ライセンス、製品インスタンス、および登録トークン](#)、13 ページ

[バーチャル アカウント](#)、14 ページ

[\[バーチャル アカウント\(Virtual Account\)\] ペイン](#)、14 ページ

[同期のアラートとアクション](#)、19 ページ

[\[同期\(Synchronization\)\] ペイン](#)、20 ページ

[\[レポート\(Reports\)\] ペイン](#)、23 ページ

[\[管理\(Administration\)\] ペイン](#)、24 ページ

[\[システム設定\(System Settings\)\]](#)、25 ページ

[自動ソフトウェア配布による Cisco Smart Software Manager サテライトのアップグレード](#)、25 ページ

[バージョン 2.0 から 2.1.2 へのアップグレード](#)、27 ページ

[後方互換性](#)、28 ページ

ライセンス、製品インスタンス、および登録トークン

ライセンス

- 有効期限付きライセンス: 一定期間(1 年、3 年、または購入した任意の期間)後に自動的に期限切れになるライセンス。
- 永久ライセンス: 期限切れがないライセンス。
- デモ ライセンス: 60 日後に期限切れになるライセンス。デモ ライセンスは、実稼働環境での利用を意図したものではありません。

製品インスタンス

製品インスタンスとは、登録トークンを使用して一意のデバイス ID(UDI)が登録された個々のデバイスまたはソフトウェアです。1 つの登録トークンで複数の製品インスタンスを登録できます。各製品インスタンスには、同じバーチャル アカウントに置かれている 1 つ以上のライセンスを割り当てることができます。

製品インスタンスは、特定の更新期間中に Cisco Smart Software Manager サテライト サーバに定期的に接続する必要があります。製品インスタンスを接続しなかった場合、最後に接続してから 1 年間は引き続きライセンスが使用されますが、1 年後に ID 証明書が期限切れになります。製品インスタンスを削除すると、そのライセンスがリリースされ、バーチャル アカウント内で使用可能になります。

製品インスタンスの登録トークン

ライセンスの消費をレポートするには、製品の登録トークンをサテライトに登録する必要があります。登録トークンは、スマート アカウントに関連付けられている製品インスタンスの登録トークン テーブルに保存されます。製品を登録すると、登録トークンは不要になるため、そのテーブルから取り消したり、削除したりすることができます。登録トークンの有効日数は、1 ~ 365 日間に設定できます。

注: トークンの作成の詳細については、「[製品インスタンスの登録トークンの作成](#)」を参照してください。(16 ページ)

バーチャル アカウント

バーチャル アカウントは、ライセンスと製品インスタンスの集合体です。会社のライセンスを論理的に整理して、各エンティティを個別に管理することができます。バーチャル アカウントを使用することで、営業部門、製品タイプ、IT グループなどの基準によりライセンスを整理できます。たとえば、会社を地域で分ける場合、地域ごとにバーチャル アカウントを割り当てて、その地域のライセンスおよび製品インスタンスを保持できます。

スマート アカウントで特定のサテライトに割り当てられたバーチャル アカウントだけを表示できます。1 つのサテライトに複数のバーチャル アカウントを割り当てることはできますが、1 つのバーチャル アカウントを複数のサテライトに割り当てることはできません。

バーチャル アカウントの使用に際しては、次の点に注意してください。

- Cisco Smart Software Manager サテライトでは、バーチャル アカウントを表示することはできますが、作成または削除することはできません。バーチャル アカウントの作成と管理は、software.cisco.com [英語] のスマート アカウントの管理ページで行う必要があります。
- すべての新しいライセンスと製品インスタンスは、バーチャル アカウントに配置されます。製品インスタンスの登録時にはバーチャル アカウントを選択します。
- サテライトを Cisco Smart Software Manager と同期することで、バーチャル アカウントの最新のデータを表示および取得できるようになります。

[バーチャル アカウント(Virtual Account)] ペイン

[バーチャル アカウント(Virtual Account)] ペインには、次の内容が含まれています。

- アラート バー
- [全般(General)] タブ
- [ライセンス(Licenses)] タブ
- [製品インスタンス(Product Instances)] タブ
- [イベント ログ(Event Log)] タブ

アラート バー

ライセンス契約に準拠していないライセンスや製品インスタンスがある場合、アラートが生成されます。アラート バーには、バーチャル アカウントのアラートの要約が表示されます。[ライセンス(Licenses)] タブと [製品インスタンス(Product Instances)] タブのテーブルにアラートが表示され、アラート バーにその要約が表示されます。

[メジャー(Major)] または [マイナー(Minor)] ボタンを選択すると、アラート バーがアラート ボタンの下に表示され、1 行に 1 つずつアラートが示されます。アラートがない場合、アラート ボタンは非表示になります。

アラートでは、アラートの説明が表示されます。アラートの右側には、適切なアクションへのリンクが示されます。

アラートの右側には、[アクションの期限(Action Due)] フィールドが表示され、アラートでのアクションの実行にどのくらいの時間が残っているかが示されます。

- [メジャー(Major)] ボタンを使用すると、メジャー アラート(非準拠の状態など)をすべて表示し、特定のアラートに対してアクションを実行できます。他のアクション リンクに加え、すべてのメジャー アラートには、アラートの解決方法に関する情報を提供する [トラブルシューティング(Troubleshooting)] ダイアログボックスへのリンクが含まれます。
- [マイナー(Minor)] ボタンを使用すると、マイナー アラート(期限が近いライセンスなど)をすべて表示し、特定のアラートに対してアクションを実行できます。制限時間内にアクションを実行しないと、マイナー アラートはメジャー アラートへと移行します。

マイナー アラートには、次のオプションがあります。

- [後で通知(Remind Later)]: 通知は、[アクションの期限(Action Due)] フィールドに表示される時間の半分が経過するまで行われなくなります。
- [却下(D dismiss)]: 通知は、次回エラーが発生するまで表示されません。
- [アラートの非表示(Hide Alerts)] ボタンを使用すると、アラートを折りたたむことができます。

[全般(General)] タブ

[全般(General)] タブには、特定のバーチャル アカウントとそのバーチャル アカウントに関連付けられている登録トークンに関する情報が表示されます。[全般(General)] タブでは、次のことを実行できます。

- バーチャル アカウントに関する情報を表示する。
- バーチャル アカウントを編集する。
- 既存の製品登録インスタンスの登録トークンのリストを表示する。
- 新しい製品インスタンスの登録トークンを作成する。
- 登録トークンのコピー、ダウンロード、または取り消しを行う。取り消された登録トークンは、リストに残したままにすることも削除することもできます。

[ライセンス(Licenses)] タブ

[ライセンス(Licenses)] タブには、バーチャル アカウントのすべてのライセンスに関する情報が表示されます。[ライセンス(Licenses)] タブでは、次のことを実行できます。

- バーチャル アカウントのすべてのライセンスのリストを表示する。
- ライセンス ID 別にライセンスをフィルタする。
- 特定のライセンスとそれを使用する製品に関する情報を表示する。
- 特定のライセンスのアラートに関する情報を表示し、問題を解決する。
- ライセンスのリストを .csv ファイルにエクスポートする。

注: Cisco Smart Software Manager サテライトでは、ライセンスを転送することはできません。ライセンスの転送は、Cisco Smart Software Manager で実行できます。

[製品インスタンス(Product Instances)] タブ

[製品インスタンス(Product Instances)] タブには、バーチャル アカウントのすべての製品インスタンスに関する情報が表示されます。[製品インスタンス(Product Instances)] タブでは、次のことを実行できます。

- すべての製品インスタンスのリストを表示する。
- バーチャル アカウント間で製品インスタンスを転送する。
- 製品 ID 別に製品インスタンスをフィルタする。
- 特定の製品インスタンスとそれが消費するライセンスに関する情報を表示する。
- 特定の製品インスタンスのアラートに関する情報を表示する。
- 特定の製品インスタンスをバーチャル アカウントから削除する。結果、スマート アカウントからも削除される。
- 製品インスタンスのリストを .csv ファイルにエクスポートする。

[イベント ログ(Event Log)] タブ

[イベント ログ(Event Log)] タブには、バーチャル アカウントのすべてのイベントに関する情報が表示されます。イベントは、Cisco Smart Software Manager サテライトを使用して実行したアクション(ライセンスおよび製品の追加と削除、バーチャル アカウントの追加と名前変更など)です。[イベント ログ(Event Log)] タブでは、次のことを実行できます。

- 選択したバーチャル アカウントのすべてのイベントの詳細リストを表示する。
- ライセンス別または製品別にイベントをフィルタする。
- リストを .csv ファイルにエクスポートする。

注: サテライトを Cisco Smart Software Manager と同期することで、バーチャル アカウントの最新のデータを表示または取得できるようになります。

バーチャル アカウント情報の表示

手順

1. ナビゲーション ペインで、バーチャル アカウントをクリックします。
2. [全般(General)] タブをクリックします。

製品インスタンスの登録トークンの作成

製品をスマート ライセンスの対象として登録するには、製品インスタンスの登録トークンを使用します。製品を登録し、製品インスタンスを特定のバーチャル アカウントに追加するには、トークンを生成する必要があります。新しいトークンを作成すると、製品が登録されるそのバーチャル アカウントの [製品インスタンスの登録トークン(Product Instance Registration Token)] テーブルに追加されます。

手順

1. ナビゲーション ペインで、既存のバーチャル アカウントをクリックします。
2. [全般(General)] タブで、[新規トークン(New Token)] をクリックします。
3. [登録トークンの作成(Create Registration Token)] ダイアログボックスで、次の情報を入力します。

名前	説明
[バーチャル アカウント(Virtual Account)] フィールド	登録トークンを作成するバーチャル アカウントが表示されます。
[説明(Description)] フィールド	登録トークンの説明。 注: トークンの特定に役立つ説明を指定します。
[有効期限(Expire After)] フィールド	トークンをアクティブにする期間(最大 365 日)。

4. [トークンの作成(Create Token)] をクリックします。

製品インスタンスの登録トークンの表示

バーチャル アカウントの登録トークンを確認できます。これらの登録トークンを使用して、バーチャル アカウントに新しい製品インスタンスを登録できます。

手順

1. ナビゲーション ペインで、バーチャル アカウントをクリックします。
2. [全般(General)] タブをクリックします。
このページには、[バーチャル アカウント(Virtual Account)] と [製品インスタンスの登録トークン(Product Instance Registration Tokens)] の 2 つのセクションがあります。
3. [製品インスタンスの登録トークン(Product Instance Registration Tokens)] では、テーブルに次の詳細が表示されます。

名前	説明
[トークン(Tokens)] フィールド	生成されたトークンの ID。リンクをクリックして、トークンの文字列全体を表示したりコピーしたりできます。
[有効期限日(Expiration Date)] フィールド	トークンをアクティブにする期間。
[説明(Description)] フィールド	登録トークンの説明。
[作成者(Created by)] フィールド	このトークンを作成したユーザ。

名前	説明
[アクション (Actions)] リンク	次のいずれかのアクションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> [コピー (Copy)]: トークンをクリップボードにコピーします。 [ダウンロード (Download)]: トークンをテキスト ファイル形式でローカル マシンにダウンロードします。 [取り消し (Revoke)]: トークンを取り消します。取り消されたトークンは使用できなくなります。 [削除 (Remove)]: 取り消したトークンを [製品インスタンスの登録トークン (Product Instance Registration Token)] テーブルから削除します。

製品インスタンスの登録トークンの管理

手順

- ナビゲーション ペインで、既存のバーチャル アカウントをクリックします。
- [全般 (General)] タブの [製品インスタンスの登録トークン (Product Instance Registration Token)] テーブルで、管理するトークンを見つけます。
- [製品インスタンスの登録トークン (Product Instance Registration Token)] テーブルで、次のいずれかのアクションを実行します。
 - [コピー (Copy)]: トークンをクリップボードにコピーします。
 - [ダウンロード (Download)]: トークンをテキスト ファイル形式でローカル マシンにダウンロードします。
 - [取り消し (Revoke)]: トークンを取り消します。取り消されたトークンは使用できなくなります。
 - [削除 (Remove)]: 取り消したトークンを [製品インスタンスの登録トークン (Product Instance Registration Token)] テーブルから削除します。

バーチャル アカウントのライセンスの表示

注: Cisco Smart Software Manager サテライトでは、バーチャル アカウント間でライセンスを転送することはできません。ライセンスの転送は、Cisco Smart Software Manager で実行できます。

手順

- ナビゲーション ペインで、バーチャル アカウントをクリックします。
- [ライセンス (Licenses)] タブをクリックします。
- ライセンス リストをこのペインから .csv ファイルにエクスポートできます。
- ライセンス ID をクリックして、ライセンスに関する詳細情報を表示します。

[ライセンスの詳細情報 (License Detailed Information)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、[概要 (Overview)]、[製品インスタンス (Product Instances)]、[イベント ログ (Event Log)] のタブがあります。

バーチャル アカウントの製品インスタンスの表示

手順

- ナビゲーション ペインで、バーチャル アカウントをクリックします。
- [製品インスタンス (Product Instances)] タブをクリックします。
- 製品インスタンスのリストを .csv ファイルにエクスポートできます。

- 製品インスタンス名をクリックして、製品インスタンスに関する詳細情報を表示します。

注: 製品インスタンスの右端にあるクラスタ セットアップ アイコンは、特定の製品インスタンスのルータが高可用であることを示します。

[製品インスタンスの詳細(Product Instance Details)] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスには、[概要(Overview)] と [イベント ログ(Event Log)] のタブがあります。

次の実施手順

製品インスタンスを別のバーチャル アカウントに転送したり、製品インスタンスを削除したりすることができます。

製品インスタンスの転送

注意: 製品インスタンスをあるバーチャル アカウントから別のバーチャル アカウントに転送しても、対応するライセンスは転送されません。ライセンスは、Cisco Smart Software Manager で別途転送する必要があります。

手順

- ナビゲーション ペインで、既存のバーチャル アカウントをクリックします。
- [製品インスタンス(Product Instances)] タブをクリックします。
- [製品インスタンス(Product Instances)] テーブルで、転送する製品インスタンスを見つけます。

注: 表示されるエントリ数を制限するには、[フィルタ(Filter)] コンボボックスに値を入力し、[フィルタ(Filter)] をクリックします。

- [アクション(Actions)] 列で、転送する製品インスタンスの [転送(Transfer)] リンクをクリックします。
- [製品インスタンスの転送(Transfer Product Instance)] ダイアログボックスで、次の情報を入力します。

名前	説明
[名前(Name)] フィールド	製品インスタンス名と製品名。
[転送先(Transfer To)] ドロップダウンリスト	製品インスタンスの転送先となるバーチャル アカウントを選択します。

- [OK] をクリックして、製品インスタンスを転送します。

製品インスタンスの削除

製品インスタンスをサテライトから削除すると、テーブルからのみ削除されます。製品インスタンスで使用されていたライセンスは引き続き使用可能であり、他の製品で使用できます。製品インスタンスを Cisco Smart Software Manager クラウドまたはサテライトに再登録する必要があります。これにより、CSSM またはサテライトが製品と通信を再開することができるようになります。

手順

- ナビゲーション ペインで、既存のバーチャル アカウントをクリックします。
- [製品インスタンス(Product Instances)] タブをクリックします。
- [製品インスタンス(Product Instances)] テーブルで、削除する製品インスタンスを見つけます。

注: 表示されるエントリ数を制限するには、[フィルタ(Filter)] コンボボックスに値を入力し、[フィルタ(Filter)] をクリックします。

- [アクション(Actions)] 列で、削除する製品インスタンスの [削除(Remove)] リンクをクリックします。
- [製品インスタンスの削除の確認(Confirm Remove Product Instance)] ダイアログボックスで、[製品インスタンスの削除(Remove Product Instance)] をクリックします。

イベント ログの表示

イベント ログには、イベント メッセージ、イベントの時刻、およびイベントに関連付けられたユーザ (存在する場合) が表示されます。

手順

1. ナビゲーション ペインで、バーチャル アカウントをクリックします。
2. [イベント ログ (Event Log)] タブをクリックします。
3. イベント リストをこのペインから .csv ファイルにエクスポートできます。

CSV ファイルへのエクスポート

手順

1. ナビゲーション ペインで、バーチャル アカウントをクリックします。
2. [ライセンス (License)]、[製品インスタンス (Product Instances)]、[イベント ログ (Event Log)]、または [ユーザ (Users)] ページで、右上にある [CSV] アイコンをクリックします。
3. [ファイルの保存 (File Save)] ダイアログボックスを使用して、ファイルをハード ドライブに保存します。

注: ファイルの保存には、プラットフォーム独自のダイアログボックスが使用されます。このダイアログボックスは、使用するブラウザやオペレーティング システムによって若干異なります。

同期のアラートとアクション

同期プロセスでは、Cisco Smart Software Manager サテライトと Cisco Smart Software Manager の間の接続を設定して、Cisco.com を介してさまざまな間隔でデータを転送することができます。Cisco Smart Software Manager サテライトの作業ペインに表示される同期に関するボタンとアラートを次に示します。

- [前回の同期 (Last Synchronization)]
- [同期を開始 (Synchronize Now)]/[手動同期 (Manual Synchronization)]
- 同期のアラート

[前回の同期 (Last Synchronization)]

このボタンは作業ペインの右上にあります。前回正常に同期が完了した日時を確認できます。このボタンをクリックすると、[ステータス (Status)] と [設定 (Settings)] の 2 つのセクションから成るダイアログが表示されます。

[ステータス (Status)] セクションでは、[前回の同期の実行 (Last Successful Synchronization)] と [次回の同期の期限 (Next Synchronization Due By)] の情報を確認できます。[ステータス (Status)] フィールドの横に、[ログの表示 (View Log)] リンクが表示されます。このリンクをクリックすると、同期アクティビティに関するテーブルが表示され、同期の実行時刻、種類、ステータスを確認できます。

[設定 (Settings)] セクションでは、選択した同期モードに関する詳細を確認できます。同期の試行結果も表示されます。同期の設定を変更するには、[設定 (Settings)] フィールドの横にある [編集 (Edit)] ボタンをクリックします。これらの設定の詳細については、「サテライトの同期スケジュールの設定」を参照してください。(21 ページ)

同期データ ファイルをダウンロードするには、このダイアログの右下にある [同期データ ファイルの表示 (View Synchronization Data File)] リンクをクリックします。

[同期を開始 (Synchronize Now)]/[手動同期 (Manual Synchronization)]

このトグル ボタンは、右上の [前回の同期の実行 (Last Successful Synchronization)] ボタンの横に表示されます。このボタンは、選択した同期モードに応じて切り替わります。それぞれのシナリオを次に示します。

- [同期 (Synchronization)] ページの [同期の設定 (Synchronization Settings)] セクションで [ネットワーク同期 (Network Synchronization)] モードを選択した場合、[同期を開始 (Synchronize Now)] ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、サテライトのデータをすぐに同期して更新できます。この同期方法は、ネットワークが展開された環境でのみ使用できます。

注: Cisco Smart Software Manager サテライトと Cisco Smart Software Manager の間の通信用にポート 443 を有効にする必要があります。

- [同期 (Synchronization)] ページの [同期の設定 (Synchronization Settings)] セクションで [手動同期 (Manual Synchronization)] モードを選択した場合、[手動同期 (Manual Synchronization)] ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、ファイル ベースの同期オプションを使用できます。

注: 詳細については、「[サテライトの同期スケジュールの設定](#)」を参照してください。(21 ページ)

同期のアラート

これらは差し迫った問題を示します。アラートは作業ペインのアラート バーに表示されます。状況に応じて、次の 2 種類のアラートが生成されます。

- [同期期限切れ (Synchronization Overdue)]: このアラートは、シスコとの同期が 31 日以上行われていない Cisco Smart Software Manager サテライトがあると表示されます。90 日以内に同期を行わないと、このサテライトに関連付けられた製品インスタンスはすべて自動的に登録解除され、サテライトが Cisco Smart Software Manager から削除されます。
- [同期失敗 (Synchronization Attempt Failed)]: このアラートは、Cisco Smart Software Manager からシスコへのデータ同期の試行時にネットワーク接続に失敗すると表示されます。

注: アラートがない場合、アラート ボタンは非表示になります。

アラートでは、アラートの説明が表示されます。アラートの右側には、適切なアクションへのリンクが示されます。たとえば、[同期失敗 (Synchronization Attempt Failed)] アラートの場合は、[却下 (Dismiss)] ボタンが表示されます。このボタンを使用すると、次回このエラーが発生するまでアラート メッセージをクリアできます。

[同期 (Synchronization)] ペイン

[同期 (Synchronization)] ペインには、次のセクションがあります。

- [同期モード (Synchronization Mode)]
- [同期データのセキュリティ設定 (Synchronization Data Security Settings)]
- [同期スケジュール (Synchronization Schedule)]

注: 詳細については、「[サテライトの同期スケジュールの設定](#)」を参照してください。(21 ページ)

[同期モード (Synchronization Mode)]

このセクションでは、Cisco Smart Software Manager サテライトと Cisco Smart Software Manager の間の接続を設定し、次のいずれかのモードを使用して手動またはさまざまな間隔でデータを同期できます。

- [ネットワーク同期 (Network Synchronization)]: このモードでは、オンデマンドまたは設定したスケジュールでデータが同期および更新されます。Smart Software Manager サテライトと Smart Manager の間の通信には、ポート 443 が使用されます。Cisco.com に定期的に接続できる場合は、このモードを選択します。この同期は、ネットワークに対応した環境に適しています。
- [手動同期 (Manual Synchronization)]: この同期モードでは、ファイルのダウンロードおよびアップロード プロセスによってデータが転送されます。ネットワーク接続を利用できない場合や Cisco Smart Software Manager と通信するための接続を確立できない場合は、このモードを選択します。

[同期データのセキュリティ設定 (Synchronization Data Security Settings)]

このセクションでは、製品インスタンスのデータ ファイルを Cisco Cloud Portal に転送する際に、次のセキュアなデータを除外するように設定できます。

- [ホスト名 (Hostnames)]: 同期スケジュールを実行するコンピュータのホスト名。このチェックボックスをオンにすると、このデータが転送から除外されます。
- [IP アドレス (IP Addresses)]: 同期スケジュールを実行するコンピュータの IP アドレス。このチェックボックスをオンにすると、このデータが転送から除外されます。
- [MAC アドレス (MAC Addresses)]: 同期スケジュールを実行するコンピュータの Media Access Control (MAC) アドレス。このチェックボックスをオンにすると、このデータが転送から除外されます。

[同期スケジュール (Synchronization Schedule)]

このセクションでは、スケジュールを設定して、サテライトと Cisco Smart Software Manager のデータを同期することができます。頻度と時刻を選択して同期スケジュールを設定できます。

サテライトの同期スケジュールの設定

特定の日時にサテライトを Software Manager と同期するようにスケジュールを設定できます。

手順

1. ナビゲーション ペインで、[同期 (Synchronization)] をクリックします。
[同期 (Synchronization)] ページには、[同期モード (Synchronization Mode)]、[同期スケジュール (Synchronization Schedule)]、[同期データのセキュリティ設定 (Synchronization Data Security Settings)] の 3 つのセクションがあります。
2. [同期モード (Synchronization Mode)] セクションで、オプション ボタンをクリックして同期の種類を選択します。次の表のいずれかのモードを指定できます。

名前	説明
[ネットワーク同期 (Network Synchronization)]	手順 4 のオプションで設定したスケジュールに従ってデータが転送および同期されます。Cisco Smart Software Manager サテライトと Cisco Cloud Portal を接続してデータを同期するスケジュールを設定できます。
[手動同期 (Manual Synchronization)]	手動同期モードでは、ファイルのアップロードおよびダウンロード プロセスによってデータが転送されます。Cisco Smart Software Manager サテライトと Cisco Cloud Portal の間で接続を確立できない場合は、このモードを選択します。 注: このオプションを選択した場合は、手順 5 に進みます。

3. [同期スケジュール (Synchronization Schedule)] セクションで、同期スケジュールを設定できます。それぞれのフィールドとオプションを次の表に示します。

注: [同期スケジュール (Synchronization Schedule)] オプションは、ネットワーク同期を実行するように選択した場合のみ表示されます。

名前	説明
[頻度 (Frequency)] フィールド	データを同期および更新するスケジュールをドロップダウンリストから選択します。次のいずれかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> [毎日 (Daily)]: 毎日 1 回、指定した時刻に同期します。 [毎週 (Weekly)]: 毎週 1 回、指定した曜日の指定した時刻に同期します。 [毎月 (Monthly)]: 毎月 1 回、指定した日時に同期します。
[時刻 (Time)] フィールド	時刻 (時間と分)。
[日付 (Date)] フィールド	[頻度 (Frequency)] フィールドで [毎週 (Weekly)] を選択した場合は曜日、[毎月 (Monthly)] を選択した場合は日付。

4. この手順の説明は、手順 3 で [手動同期 (Manual Synchronization)] モードを選択した場合に適用されます。手順 3 で [手動同期 (Manual Synchronization)] オプション ボタンを選択した場合、このページの右上に [手動同期 (Manual Synchronization)] メニュー ボタンが表示されます。手動同期を実行するには、このボタンをクリックし、表示されたダイアログで以降の手順を実行します。
5. [手動同期 (Manual Synchronization)] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
 - a) [ダウンロード (Download)] ボタンをクリックして、サテライト データ ファイルをローカル ハード ディスクにダウンロードします。データ ファイルが生成され、保存するローカル ファイル ディレクトリが開きます。データ ファイルを保存する場所を選択します。
 - b) Cisco Smart Software Manager にログインし、[サテライト (Satellites)] タブをクリックします。
 - c) [サテライト (Satellites)] ページで、データを同期するサテライトを見つけます。
 - d) このページの [アクション (Actions)] 列で、そのサテライトの [ファイル同期 (File Sync)] リンクをクリックします。
 - e) [サテライトの同期] ダイアログボックスで、[参照 (Browse)] をクリックし、サテライトで生成されたデータ ファイルをアップロードします。
 - f) [応答ファイルの生成 (Generate Response File)] をクリックして、データが同期された応答ファイルを生成します。確認のための [同期応答ファイルの生成 (Synchronization Response File Generated)] ダイアログが表示されます。
 - g) [応答ファイルのダウンロード (Download Response File)] をクリックして、応答ファイルをローカル ハード ディスクにダウンロードします。
 - h) Cisco Smart Software Manager サテライトにログインします。
 - i) [手動同期 (Manual Synchronization)] ダイアログボックスの下にある [アップロード (Upload)] をクリックして、応答ファイルをアップロードし、手動同期プロセスを完了します。

この手順が終了すると、サテライトに関連付けられたバーチャル アカウントのライセンスの使用権と使用状況が、Cisco Smart Software Manager とサテライトで同じになります。
6. [同期データのセキュリティ設定 (Synchronization Data Security Settings)] セクションで、製品インスタンスのデータ ファイルを Cisco Cloud Portal に転送する際にセキュアなクライアント データを除外する場合は、それぞれの横にあるチェックボックスをオンにします。次の 1 つ以上の項目を指定できます。

名前	説明
[ホスト名 (Hostnames)] チェックボックス	同期スケジュールを実行するコンピュータのホスト名。このチェックボックスをオンにすると、このデータがデータ転送から除外されます。

名前	説明
[IP アドレス (IP Addresses)] チェックボックス	同期スケジュールを実行するコンピュータの IP アドレス。このチェックボックスをオンにすると、このデータがデータ転送から除外されます。
[MAC アドレス (MAC Addresses)] チェックボックス	同期スケジュールを実行するコンピュータの Media Access Control (MAC) アドレス。このチェックボックスをオンにすると、このデータがデータ転送から除外されます。 注: MAC アドレスは、通信用のネットワーク インターフェイスに割り当てられた一意の識別子です。ネットワーク アダプタのハードウェアに製造段階で割り当てられています。コンピュータのネットワーク インターフェイス カード (NIC) に固定で割り当てられており、物理ネットワーク セグメントの通信に使用されます。

[レポート(Reports)] ペイン

[レポート(Reports)] ペインでは、バーチャル アカウントに対して複数のレポートを実行することができます。レポートのテーブルには、サポートされている各レポートの次の情報が表示されます。ライセンスまたは製品インスタンスのレポートを実行できます。

名前	説明
[名前 (Name)] エリア	Cisco Smart Software Manager サテライト レポートの名前。このリンクをクリックして、特定のレポート ページを表示します。
[説明 (Description)] エリア	レポートの説明。

レポートの実行

手順

1. ナビゲーション ペインで、[レポート(Reports)] をクリックします。
2. [レポート(Reports)] ページで、実行するレポートを選択します。
3. [レポートの設定 (Report Settings)] ペインで、次の情報を入力します。

名前	説明
[名前 (Name)] フィールド	レポートに割り当てる名前。
[説明 (Description)] フィールド	レポートの説明 (オプション)。
[バーチャル アカウント (Virtual Account)] ドロップダウン リスト	レポートを実行する 1 つ以上のバーチャル アカウントを選択します。すべてのバーチャル アカウントに対してレポートを実行するには、[すべてのバーチャル アカウント (All Virtual Accounts)] を選択します。 注: アクセス権があるバーチャル アカウントについてのみレポートを実行できます。
[製品タイプ (Product Type)] フィールド (製品インスタンスのレポートのみ)	レポートを実行する製品タイプ。1 つ以上の製品ファミリーを選択できます。

4. [アクション (Actions)] ペインで、アクションを選択します。次のいずれかになります。

- レポートの実行
- Excel にエクスポート
- CSV にエクスポート

[レポートの実行 (Run Report)] をクリックすると、新しいブラウザ ウィンドウでレポートが開きます。[Excel にエクスポート (Export to Excel)] または [CSV にエクスポート (Export to CSV)] をクリックすると、[ファイルの保存 (File Save)] ダイアログボックスが表示されます。

[管理 (Administration)] ペイン

Cisco Smart Software Manager サテライトのライセンス管理者は、[管理 (Administration)] ペインの機能を使用して次のことを実行できます。

- [ユーザ (Users)] タブで、新しいユーザを作成する、既存のユーザを削除する、ユーザ プロファイル データを表示する。
- [アップグレード (Upgrade)] タブで、Cisco Smart Software Manager サテライトを新しいバージョンにアップグレードする。
- [診断ログ (Diagnostic Logs)] タブで、ユーザ エクスペリエンスの診断ログを生成する (シスコのサポート チームがスマートライセンスの利点を最適化するために使用)。

[ユーザ (Users)] タブのテーブルには、次の情報とオプションが表示されます。

名前	説明
ユーザ名	ユーザの名前。リンクをクリックすると、ユーザの詳しい情報が表示されます。
名前	ユーザのフル ネーム。
アクション	ユーザをアプリケーションから完全に削除する場合は、[削除 (Delete)] をクリックします。 プロンプトで削除を確認します。

[管理 (Administration)] ペインには、新しい管理者シーケンスを作成するボタンや、データを CSV ファイルにエクスポートするボタンもあります。

新しい管理者の作成

新しいサテライト管理者を作成するには、次の手順に従います。これは、サテライト限定のローカルの処理で、Cisco Smart Software Manager のスマート アカウントには影響しません。

手順

1. ナビゲーション ペインで、[管理 (Administration)] をクリックします。
2. [管理 (Administration)] ページで、[新規管理者 (New Administrator)] をクリックします。
3. [新規管理者 (New Administrator)] ダイアログボックスで、次の情報を入力します。

名前	説明
[ユーザ名 (Username)] フィールド	ユーザに割り当てる名前または ID。ユーザ名は 4 文字以上の英数字で指定する必要があります。
[フル ネーム (Full Name)] フィールド	ユーザの姓名。

名前	説明
[パスワード (Password)] フィールド	ユーザのパスワードを入力します。パスワードは、数字、大文字、特殊文字を少なくとも 1 文字ずつ使用して、6 文字以上で指定する必要があります。
[パスワードの再入力 (Re-enter Password)] フィールド	パスワードを再入力します。
[初回ログイン時にパスワードの変更が必要 (User must change password at first login)] チェックボックス	ユーザに対して初回ログイン後にパスワードの変更を強制する場合にオンにします。

4. [OK] をクリックします。

診断ログ ファイルの生成

シスコのサポートで使用する診断ログを生成するには、次の手順を実行します。

手順

1. ナビゲーション ペインで、[管理 (Administration)] をクリックします。
2. [管理 (Administration)] ページで、[診断ログ (Diagnostic Logs)] をクリックします。
3. ログ ファイルの日付範囲を指定します。
 - ドロップダウン メニューから、事前に設定された日付範囲を選択します。
 - [Date Range (日付範囲)] を選択し、表示されたウィンドウでデータ サンプルの開始日と終了日を入力します。
4. [Zip ファイルの生成 (Generate Zip File)] をクリックして、診断ログをコンピュータのデスクトップにダウンロードします。
このレポートを電子メールに添付してシスコのサポートに送ります。

[システム設定 (System Settings)]

このタブでは、特定の製品との後方互換性を保つために、SSL (セキュア ソケット レイヤ) v3 を有効にすることができます。デフォルトのトランスポート ゲートウェイは TLS (Transport Layer Security) であるため、古いスマート エージェント イメージを使用したデバイスでは SSLv3 のハンドシェイクが試行されて失敗します。これは、そのような古い製品で引き続き SSLv3 を使用してサテライトと通信できるようにするためのオプションです。

自動ソフトウェア配布による Cisco Smart Software Manager サテライトのアップグレード

注: この項の情報は、Cisco Smart Software Manager サテライト バージョン 2.1 以降を使用しているユーザ向けの内容です。バージョン 2.0 を使用している場合は、「[バージョン 2.0 から 2.1.2 へのアップグレード](#)」を参照してください。(27 ページ)

Cisco Smart Software Manager サテライトでは、自動ソフトウェア配布 (ASD) によるアップグレード機能を利用できます。ASD を使用して、ソフトウェアのアップグレードが入手可能かどうかを確認できます。ASD には、アップグレードを自動的にダウンロードしてインストールするオプションもあります。ASD を使用するには、サテライトから cisco.com に接続してアップグレード プロセスを完了する必要があります。

ASD を使用すると、Cisco.com からアップグレードをダウンロードする際に必要なエンド ユーザ ライセンス (EULA) への同意手順もスキップできます。EULA に従う必要があることを通知するメッセージだけが表示されます。

手動アップグレードに進むには、「[ネットワーク アップグレードの使用](#)」を参照してください。(26 ページ)

ネットワーク アップグレードの使用

手順

1. Cisco Smart Software Manager サテライトにログインし、[管理(Administration)] ボタンをクリックします。
2. [アップグレード(Upgrade)] タブをクリックします。
3. [ネットワーク アップグレード(Network Upgrade)] の見出しの下にある [アップグレードを確認(Check for Upgrade Now)] をクリックします。
 - Cisco Smart Software Manager サテライトが最新のバージョンの場合は、新しいバージョンがないことを示すメッセージが表示されます。
 - 新しいバージョンを利用できる場合は、そのバージョン番号が表示され、[リリース ノートを表示(View Release Notes)] をクリックするとその更新プログラムの情報を確認できます。
4. [アップグレードを開始(Upgrade Now)] をクリックします。

パッチがダウンロードされ、アップグレードが開始されます。

 - パッチ ファイルのサイズやインターネット接続の速度によっては、ダウンロードが完了するまでに最長で 10 分程度かかることがあります。
 - ダウンロードの進捗状況が表示され、完了するとアップグレード ステータスが通知されます。
 - アップグレード プロセスが完了すると、サテライトが自動的に再起動されます。アップグレードに失敗した場合は、[エラー ログの表示(View Error Logs)] をクリックして詳細を確認できます。

注: アップグレードを取り消す場合は、[取り消し(Cancel)] をクリックします。ただし、取り消しができるのはダウンロード プロセスの間だけです。アップグレードの開始後はプロセスを中止できません。
5. アップグレード プロセスが完了したら、手順 1 ~ 3 に従って、最新バージョンがインストールされていることを確認します。

ネットワーク アップグレードのスケジューリング

ネットワーク アップグレードのスケジュール機能を使用する場合、以下について選択します。

- Cisco Smart Software Manager サテライトによる更新の確認頻度
- 新しいバージョンが利用できるようになったときの Cisco Smart Software Manager サテライトによるアクション

ネットワーク アップデートをスケジュールして設定するには、次の手順に従います。

手順

1. Cisco Smart Software Manager サテライトにログインし、[管理(Administration)] ボタンをクリックします。
2. [アップグレード(Upgrade)] タブをクリックします。
3. [利用可能なアップグレードを自動で確認する(Automatically check for available upgrades)] オプションをクリックします。
4. 頻度、時刻、および曜日のドロップダウン メニューを使用して、Cisco Smart Software Manager サテライトでアップデートを確認するスケジュールと頻度を設定します。
5. [アップグレードが利用可能な場合(If Upgrade Available)] ドロップダウン メニューをクリックして、インストール方法を選択します。
 - **[アラート メッセージを表示する(Display Alert Message)]:** 無視するかネットワーク アップグレードを実行するかを選択できるアラート メッセージが表示されます。手動アップグレード プロセスの使用については、「[ネットワーク アップグレードの使用](#)」を参照してください。(26 ページ)
 - **[アラートを表示し、アップグレードをダウンロードする(Display Alert and Download Upgrade)]:** パッチ ファイルが自動的にダウンロードされ、完了後にアラートが表示されます。このアラートは無視することも可能で、必要なときにアップグレードを実行できます。アップグレードする準備ができたなら、「[ネットワーク アップグレードの使用](#)」の手順に従ってアップグレードを実行します。(26 ページ) アップグレードを開始するには、[アップグレードを開始(Upgrade Now)] をクリックします。

- [アラートを表示し、ダウンロードしてアップグレードする (Display Alert, Download, and Upgrade)]: 新しいアップグレードが自動的にダウンロードされてインストールされます。アップグレードが完了するとメッセージが表示されます。アップグレードに失敗した場合は、[エラー ログの表示 (View Error Logs)] をクリックして原因を確認できます。

注: いずれのインストール方法を選択した場合も、アラート メッセージからリリース ノートへのリンクを利用できます。

6. [保存 (Save)] をクリックして変更を保存します。

注: 毎月のスケジュールで 29 日以降の日付を選択した場合、その日付がない月については、スケジュールされたアクションが翌月に持ち越されます。

手動アップグレードの使用

手動アップグレードは、ASD 機能のオプションではありませんが、ユーザ インターフェイスに ASD のオプションと一緒に表示されています。手動アップグレードでは、Cisco.com で利用可能なダウンロードを確認した後、手動でアップグレードを開始する必要があります。

手順

1. [手動アップグレード (Manual Upgrade)] の見出しの下にある [利用可能なダウンロードを確認 (View Available Download)] をクリックします。Cisco.com に接続され、サテライトの最新リリースのダウンロード ページが表示されます。
2. Cisco.com からパッチ ファイルを直接ダウンロードします。
3. ファイルの選択 (Choose File) をクリックし、前の手順で PC にダウンロードしたパッチ ファイルを選択します。
4. [アップロード (Upload)] をクリックし、ファイルをサテライトにアップロードします。
5. [アップグレードを開始 (Upgrade Now)] をクリックし、アップグレード プロセスを完了します。

アップグレードが完了すると、サテライトのログイン ページが表示されます。

バージョン 2.0 から 2.1.2 へのアップグレード

はじめる前に

- Smart Software Manager サテライトのバージョンを 2.0 から 2.1.2 にアップグレードするには、バージョン 2.0 がインストールされて実行されている必要があります。
- また、アップグレードするシステムで Bash シェル スクリプトを実行する権限が必要になります。
- Cisco Smart Software Manager のアップグレード後は前のバージョンにダウングレードできないため、アップグレード スクリプトを実行する前に仮想化環境をバックアップしておくことを強く推奨します。

このアップグレード プロセスは、Bash シェルで実行する必要があります。

手順

1. Cisco Smart Software Manager サテライト バージョン 2.1 のパッチ ファイルを Cisco.com からローカル マシンにダウンロードします。
2. `collectorlogin` コマンドを使用して、Cisco Smart Software Manager サテライト仮想マシンにパッチ ファイルをアップロードします。

例: `scp ~/Downloads/sp-17.0.1-0-0-1nx64.zip collectorlogin@172.20.222.75:~/sp-17.0.1-0-0-1nx64.zip` (JeOS で指定された正確なファイル名を入力)

注: `collectorlogin` のデフォルトのパスワードは `Collector12!User` です。

`collectorlogin` のパスワードをリセットするには、管理者としてサテライトにログインし、コマンド `pwdreset collectorlogin 180` を実行します。

3. SSH を使用して Smart Software Manager サテライトのコンソールにログインします。

4. コマンド シェルを開き、次の Linux コマンドを実行します。
`sudo /opt/LCM/bin/lcmagent-apply.tcl SP filename &`
5. `sudo` コマンドが完了したら、次のコマンドを使用してログを確認します。
`tail -f /opt/LCM/logs/install`
6. アップグレードのステータスを確認するには、次のコマンドを使用します。
`cat /op/LCM/info/satellite_upgrade_status.txt`
 アップグレード プロセスには 3 ~ 5 分かかります。

エラーが発生した場合は、該当するエラー メッセージが表示され、自動ロールバックが行われます。その処理が完了すると、Cisco Smart Software Manager サテライト 2.0 のログイン画面にリダイレクトされます。

7. アップグレードが完了したら、Cisco Smart Software Manager サテライトのログイン画面にバージョン 2.1 と表示されていることを確認します。
8. 2.0 のサテライトを CSSM に登録していた場合は、サテライトをシスコのライセンス サーバと同期し、Cisco Smart Software Manager サテライトを再起動する必要があります。

サテライトを CSSM と再同期しないと、多層型証明書階層のサポート(自己署名証明書のダウンロードなしで、HTTPS を使用してサテライトに登録する機能)を利用できない場合があります。また、デバイスをサテライトに登録する際に HTTPS を使用できず、ブラウザで HTTPS を使用しているユーザは信頼済みでない証明書や Cisco Root メッセージの署名がない証明書を受け取ることになります。

後方互換性

マルチレベルの証明書階層機能を利用するには、Cisco Smart Software Manager、トランスポート ゲートウェイ、Cisco Smart Software Manager サテライト、およびスマート エージェントの変更が必要になります。それらすべてが連携することで、次のことが実現されます。

- CSSM へのサテライトの登録時に 48 時間待つ必要がなくなります。
- 製品インスタンスとサテライトの間の通信で自動的に HTTPS が有効になり、自己署名証明書のダウンロードとインストールが不要になります。このためには、トランスポートとして HTTPS を使用するように Smart Call Home プロファイルで設定 (`destination transport https` コマンドを使用)する必要があります。

スマート ライセンス対応製品に組み込まれたスマート エージェントの中には、まだ 3 階層の証明書を使用しているなど、この多層型証明書階層機能にアップグレードされていないものもあります。このような場合は、Cisco Smart Software Manager サテライトで、サテライトとの通信に HTTPS を使用する 3 階層のスマート エージェントをサポートする必要があります。

次のようなケースがあります。

新しいスマート エージェントを搭載したデバイスを最新リリースのサテライトに登録する

最新のスマート エージェント コードを実装したデバイスは、多層型証明書階層を使用して最新のサテライトに登録できます。

新しいスマート エージェントを搭載したデバイスを下位のサテライトに登録する

最新のスマート エージェント コードを実装したデバイスでは、証明書チェーン(デバイスからサテライト、Cisco Root まで)が動的に検証されます。

古いスマート エージェントを搭載したデバイスを最新リリースのサテライトに登録する

最新リリースのサテライトをインストールすると、それと同時に Cisco Smart Software Manager への登録が開始されます。このプロセスで、サテライトから以前の 3 階層の証明書が要求されます。古いスマート エージェントを搭載したデバイスをサテライトに登録すると、登録に失敗したことを示すメッセージが表示され、48 時間待ってからネットワーク同期または手動同期を実行し、後方互換性がある証明書(3 階層)を取得してから登録し直すように通知されます。この手順に従うと、これらのデバイスをサテライトに正常に登録できます。

この場合、デバイスとサテライトの通信には HTTPS が使用されます。手順は次のとおりです。

- **Smart Call Home** プロファイルで、トランスポートとして HTTPS を使用します。
- サテライト(マルチレベルの証明書階層機能に対応)が CSSM に正常に登録された後、サテライトへの製品インスタンス(下位のスマート エージェント)の登録が試行され、次のエラー メッセージが表示されて失敗します。

```
Compatibility Error: The satellite is not currently compatible with the Smart Licensing Agent version on this product. If it has been 48 hours since the satellite was registered, synchronize the satellite with Cisco's licensing servers to enable compatibility with older agent versions and then try the registration again.
```

- 48 時間待ちます。
- サテライトと CSSM のオンデマンドのネットワーク同期または手動同期を実行します。
- 製品インスタンスをサテライトにもう一度登録します。

2.1 のサテライトを新規にインストールした場合は、登録が完了してログインしたときに次のメッセージが表示されます:

```
Version Compatibility Note - Temporarily, this satellite will only be able to register Product Instances that are using the Smart Licensing Agent version 1.5 or later (use the "show license" commands on the Product Instance to see the agent version). To enable registration of Product Instances using older versions of the agent, wait two business days after the satellite's initial registration and then synchronize the satellite.
```

この場合は、48 時間後に同期を実行すると、CSSM から 3 階層の証明書が取得され、サテライトで 3 階層のスマート エージェントがサポートされるようになります。

トラブルシューティング

[クライアント登録に関する問題](#)、30 ページ

[手動同期に関する問題](#)、30 ページ

[ネットワーク同期に関する問題](#)、30 ページ

クライアント登録に関する問題

クライアント登録プロセスで問題が発生した場合は、次の対処方法を試してください。

- JeOS およびサテライトのページでサテライトの設定が正しいことを確認します。
『*Smart Software Manager satellite Installation Guide (Smart Software Manager サテライト インストール ガイド)*』 (<http://www.cisco.com/web/ordering/smart-software-manager/index.html> [英語]) の「Configuring the IP Address (IP アドレスの設定)」を参照してください。
- クライアントの Call Home の設定でサテライトを参照していることを確認します。
『*Smart Software Manager satellite Installation Guide (Smart Software Manager サテライト インストール ガイド)*』 [英語] の「Sample of SCH Profile to Use Smart Software Manager satellite on the Cloud Service Router (クラウド サービス ルータで Smart Software Manager サテライトを使用する SCH プロファイルの例)」を参照してください。
- サテライトからトークンが生成されていることを確認します。
「[製品インスタンスの登録トークンの作成](#)」を参照してください。(16 ページ)

手動同期に関する問題

手動同期プロセスで問題が発生した場合は、次の対処方法を試してください。

- サテライトの時刻が正しいことを確認します。
『*Smart Software Manager satellite Installation Guide (Smart Software Manager サテライト インストール ガイド)*』 (<http://www.cisco.com/web/ordering/smart-software-manager/index.html> [英語]) の「Verifying Time Sync with the NTP (NTP による時刻の同期の確認)」を参照してください。
- ポート 443 (HTTPS) がファイアウォールを通過できるようになっていることを確認します。
- 関連付けられたバーチャル アカウントのライセンスを確認します。
- YAML (要求/応答) ファイルのアップロード先/ダウンロード先のサテライトが正しいことを確認します。これを確認するには、同期するサテライトの名前がファイル名に含まれていることを確認します。

ネットワーク同期に関する問題

ネットワーク同期プロセスで問題が発生した場合は、次の対処方法を試してください。

- ポート 443 (HTTPS) がファイアウォールを通過できるようになっていることを確認します。
- 設定された DNS サーバにサテライトから到達できることを確認します。
- Cisco.com にサテライトから到達できることを確認します。

- サテライトの時刻が正しいことを確認します。

『*Smart Software Manager satellite Installation Guide (Smart Software Manager サテライト インストール ガイド)*』
 (<http://www.cisco.com/web/ordering/smart-software-manager/index.html> [英語])の「Verifying Time Sync with the NTP (NTP による時刻の同期の確認)」を参照してください。

- 関連付けられたバーチャル アカウントに必要なライセンスがあることを確認します。